

霧が丘六丁目 まちづくりニュース

霧が丘六丁目まちづくり推進會

地域まちづくり組織（横浜市 認定番号 S16001）



自分たちではじめよう。
もっと住みやすいまちづくり。



霧が丘六丁目まちづくり推進ニュース Vol.13



「レモンのまち霧が丘」の実現を目指して 29年度みどりアップ部会の緑化事業が完了！



霧が丘六丁目まちづくり推進會
みどりアップ部会は、3月31日をも
って「観て、食べて、祭りでも
どりを体感！ みどりで交流！」事
業の初年度プログラムを完了しました。予算執行率は
95% とほぼ予定通りに進めることができたのは、住民の
皆さまのご協力があったからこそと感謝しております。

今回、お庭の提供というかたちで事業に参加して
いただいたのは、秋谷さん、石井さん、坂野さん、杉崎さん、
高橋さん、羽根田さん、藤澤さん、フローラル霧が丘の
8軒でした。また、今回の事業では、菅博嗣先生と鴨居
造園さんにたいへんお世話になりました。

菅先生は、申請資料作成の時に横浜市から委託された
コンサルタントの立場で関わっていただき、助成金が
通った後の設計も担当していただきました。初年度の事
業を無事に完了することができたのは、秋から冬にかけ
ての寒さの中、雨の日も六丁目を歩き回って申請資料作



緑化事業シンボルのレモンを植えました。思わず笑顔がこぼれますね。

りを全力でサポートして下さった先生のおかげです。今
年度以降も設計をお願いする予定ですので、住民の皆さ
んと話す機会もあると思います。ちょっと太めのメガネ
のおじさんが興味津々に庭を見ていたら、それはたぶん
菅先生です。よろしくお願いします。

菅先生とともにお世話になった鴨居造園さんは、植栽
作業を担当して下さいました。親方の石井さんはヒゲに
長髪という、見た目はどう見てもジャズミュージシャン
です。菅先生と私たちが次々に出す要求を黙々とこな
していただき、造園作業のみならず、役所に提出する書類
作成では、菅先生と一緒に徹夜して下さいました。街で
作業しているのを見かけたら気軽に声をかけて下さい。
植物の好きな方であれば、きっと話がはずむと思います。

霧が丘六丁目まちづくり推進會みどりアップ部会は、
「レモンのまち霧が丘」を目指して、2年度目以降さら
に対象地域を広げていく予定です。今後ともご協力よろ
しくお願いいたします。



霧が丘の特徴であるスロープを上手に活かしておしゃれな緑化を実現。



「こんな場所がほしい！」をつくってみました。

第2回地域開放スペース提案ワークショップ開催



1月に続き3月18日(日)に「みんなの場所をつくってみよう!シリーズ」第2回ワークショップを開催しました。推進会事務局メンバーを入れて25名の参加があり、前回同様、霧が丘六丁目自治会以外の方の参加もありました。

いくつかの事前説明の後、進行役の東京工業大学の那須先生から第1回で出た意見が紹介されました。前回の結果を踏まえたグループ・ワークショップでは、椅子、テーブル、流し台など、10分の1サイズの紙製の家具の模型を使用して、「地域にこんな場所がほしい」とそれぞれが考える部屋を作りました。短時間でやりたいことのイメージをつくり、そのイメージから居心地のよい部屋にしていく作業。どのグループもワイワイと大騒ぎ

でした!

次回は5月20日(日)霧が丘5丁目の多世代交流サロン「あかしあ」にて開催します。詳しいご案内は別途いたしますので、ぜひいらしてください。1回目、2回目の参加経験は不問です!



大きなテーブルを囲む空間をつくったグループもありました。

NEWS! 小学校跡地の公募が始まりました

旧霧が丘第一小学校跡地を管理している横浜市財政局は、3月20日付で利用事業者の公募を開始しました(6月20日応募締切)。土地は30年の定期借地、既存校舎を購入して活用する教育事業が条件となっています。公募条件には霧が丘六丁目まちづくりプランの遵守も盛り込まれています! どんな事業者が選ばれるか、結果は8月中に公表予定です。



まちづくりコラム(3)「リビングラボ」の巻

皆さんはリビングラボ(Living Lab)という言葉を知っていますか? 利用者が自ら現場を中心に課題を解決する方法論として、MIT(マサチューセッツ工科大学)のW.ミッチェル(W.Mitchell)教授が初提示した概念です。

最近、住民、企業、大学などの協力で社会課題を解決する方法として広く使われています。横浜市もリビングラボの導入に力を入れています。

ネットでリビングラボについて調べると、IoT、ビックデータのような先端技術について派手に説明していることが多いですが、わかりやすく言うと「新しい知見やノウハウ、技術などを社会に大規模導入する前に、実際に生活の場やそれに近い形で、住民、行政、大学、事業体など関係各所を巻き込んで使ってみて、改良してみよう」ということで、実は霧が丘六丁目まちづくり推進会がこれまで地域のために議論し、活動してきたことと似ているのです。社会実験あるいはリビングラボとしての意義は、そこでの結果のフィードバックにあります。タウンニュースでの紹介もその一部になりますが、皆さんの活動のフィードバックや成果の振り返りを通じた展開が大切ですね。

地域住民が多様な人々や組織と連携してより積極的に様々な課題について工夫することで、よりよい地域社会を作ることができます。もう世の中は専門家だけが、課題を解決できる時代ではなく、みんながデザインし、研究できるようにになりました。皆さんも、自分のまちに研究室(リビングラボ)を作ってみませんか?

東京工業大学 建築学系 那須研究室 韓昌燾(博士課程)

霧が丘六丁目まちづくり推進ニュース 発行:霧が丘六丁目まちづくり推進会
Vol.13[2018年5月号] 問合せ先:090-7945-0644(佐東)
<https://kirigaoka6choume.jimdo.com/>



2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です

11 住み続けられる
まちづくりを



国連持続可能な開発目標 SDGs 達成に向け取り組みます。